

PRAEVIDENTIA DAILY (3月24日)

昨日までの世界：FOMC 後のドル高が徐々に反転

先週金曜は、主要通貨では対ポンドを除き FOMC 後のドル高が反転してきており、豪ドル、カナダドルやユーロが対米ドルで強含みとなり、豪ドル/米ドルは FOMC 結果発表直前の水準（0.9120 ドル）を取り戻しつつある。カナダドルは、カナダ 2 月 CPI 前年比が総合で+1.1%、コアで+1.2%といずれも市場予想を上回ったほか、1 月小売売上高もコアで前月比+1.0%と市場予想を上回ったことがカナダドル反発の材料となった。ドル/円は、米長期債利回りの低下と共にじり安となり、一時 102.02 円と 102 円割れ目前となったが持ちこたえている。

Fed 高官からは FOMC 後の市場の反応に対する牽制は聞かれなかった。Bullard セントルイス連銀総裁は、Yellen 議長が、量的緩和終了後も FF 金利を維持する「相当期間」は 6 か月程度だと述べたことにつき、民間予想と一致するものだ、として議長を擁護、結果としてややタカ派的となったが市場の反応はなかった。民間予想と一致していれば FOMC 後にあれだけの反応はなかったはずだが。Stein 理事も、債券相場が過熱している時は失業率上昇のリスクを高めても緩和的な金融政策を後退させる必要がある、と自説を繰り返しタカ派的だった。むしろ、タカ派として知られる Fisher ダラス連銀総裁が、FF 金利引上げ時期見通しの前倒しがなぜか大幅変更と市場に受け止められた、と述べたが、同時に、このままのペースで行けば資産購入が今年 10 月に終了する、と述べタカ派姿勢は修正されていない。なお、ハト派で知られ 3 月 FOMC で反対票を投じた Kocherlakota ミネアポリス連銀総裁は、新たなガイダンスは当局が金融緩和にどの程度前向きなのかにつき不透明性を高めるとし、自説である失業率基準の 5.5%への引下げを主張した（当社ウェブサイト「[最近の Fed 高官発言](#)」も参照）。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.1	+0.00	+0.00	+0.00	-0.03	-0.03	+0.00	-0.3	+0.0	+0.0	+0.4
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	+0.1	-0.01	-0.00	+0.00	+0.01	-0.01	-0.03	+0.1	-0.3	+0.4	+0.00
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	-0.01	-0.01	+0.00	+0.01	-0.02	-0.03	+0.2	-0.3		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.5	+0.02	+0.02	+0.00	+0.06	+0.03	-0.03	-0.3	+2.7	-0.0	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.0	+0.00	+0.00	+0.00	+0.02	-0.01	-0.03	-0.3	+2.7	-0.0	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.2	+0.00	+0.00	+0.00	-0.01	-0.03	-0.02	-0.3	+0.0	-0.0	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.9	+0.10	+0.08	-0.02	+0.11	+0.09	-0.03	-0.5	-0.7	+0.6	-0.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	-0.9	-0.03	+0.06	+0.08	-0.00	+0.09	+0.09	+2.6	-0.5	-0.0	-0.07
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.6	+0.05	+0.13	+0.08	+0.03	+0.12	+0.09	+0.7	-0.5	+2.2	-1.1
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.0	-0.07	+0.01	+0.08	+0.02	+0.10	+0.09	+0.7	-0.5	+2.2	-1.1
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-1.0	-0.02	+0.06	+0.08	-0.01	+0.08	+0.09	+0.4	-0.5		
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+1.0	+0.02	+0.08	+0.06	-0.00	+0.09	+0.09	+0.7	-0.5	+0.6	-1.1

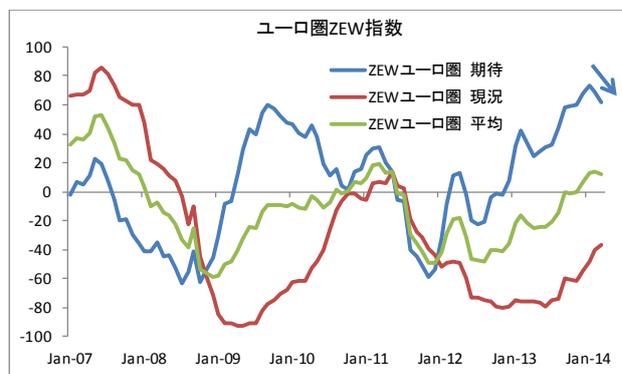
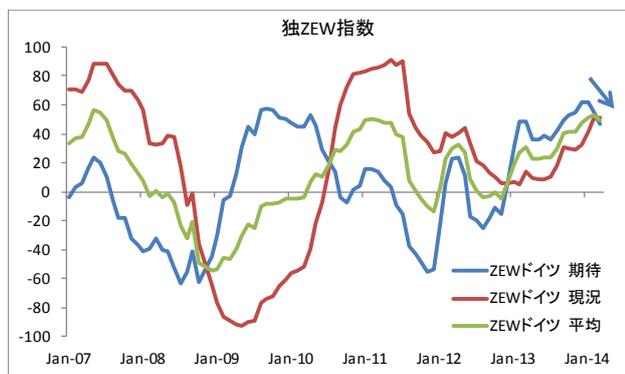
(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：ユーロ圏景況感のピークアウトを確認へ

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
中国 3 月 HSBC 製造業 PMI 速報値	10 : 45	48.5	48.7	
フランス 3 月製造業 PMI 速報値	17 : 00	49.7	49.7	
ドイツ 3 月製造業 PMMI 速報値	17 : 30	54.8	54.5	
ユーロ圏 3 月コンポジット PMI 速報値	18 : 00	53.3	53.2	
Stein・FRB 理事発言	22 : 00			ややタカ派
岩田日銀副総裁発言	不明			ハト派
Linde スペイン中銀総裁発言	0 : 00			
G7 緊急会合 (オランダ・ハーグ)				対ロシア制裁が議題

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日はユーロ圏 PMI が注目で、18 : 00 発表のユーロ圏分に先行してフランス分が 17 : 00、ドイツ分が 17 : 30 に発表されるため、フランス分、ドイツ分が市場予想対比で上振れ、下振れいずれになるかでユーロ圏分を事前に織り込む動きとなるだろう。3 月分の景況感指数としては既に ZEW 作成のドイツ分、ユーロ圏分が発表されており、いずれも先行き 6 か月後の見通しを示す期待指数が 2 カ月連続悪化、また過去 2007 年、2009 年の景況感改善局面と比べてもかなり期待が高水準にきていることから、今後悪化に向かうリスクが高いとみられる。その場合、デフレ圧力が高まる中で ECB はようやく追加金融緩和に本腰を入れてくるとみられ、ユーロ高牽制の口先介入の頻発と追加緩和期待から、堅調が続いていたユーロは遂に下落に向かうだろう。



ドル/円は、米経済指標発表がない中で、先週の 3 月 FOMC 後の過剰なドル高反応の修正が続くとみられ、102 円割れへじり安となるだろう。また、ウクライナ・ロシア情勢（米、EU が制裁を強化、格付け機関 S&P がロシアのソブリン格付けをネガティブへ引下げ、ロシアルーブルが下落）およびトルコ情勢（エルドアン首相が Twitter へのアクセス禁止、30 日に地方選、トルコリラが下落）なども米長期債利回りの上昇抑制を通じてドル/円の上値抑制要因となるとみられる。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641